

| クルクマ「シャローム」の8～10月出し栽培法  |    |    |    |    |     |              |    |
|---|----|----|----|----|-----|--------------|----|
| <p>【要約】 無加温ハウスでクルクマ「シャローム」の8～10月出し栽培を行う場合は3月中旬に定植しハウス内にトンネルを設置する。定植前に球根を高温で催芽処理（35℃、30日間）し、さらにBA液剤（300倍水溶液）に浸漬して定植すると収量が増加する。</p> |    |    |    |    |     |              |    |
| 園芸研究所・野菜花き部・花き花木研究室   |    |    |    |    | 連絡先 | 092-922-4111 |    |
| 部会名   | 園芸 | 専門 | 栽培 | 対象 | 花き類 | 分類           | 指導 |

【背景・ねらい】

クルクマ「シャローム」は夏季の球根切花として最近導入された種類で、生育に高温を必要とするが栽培法については不明な点が多い。特に出芽時期が開花期や収量に大きく影響することが考えられるので、8～10月出し栽培における催芽処理方法や定植時期及びトンネル被覆による保温方法を明らかにする。

【成果の内容・特徴】

- ① 無加温で栽培する場合には、3月中旬に定植し、6月上旬までハウス内にトンネルを設置して密閉し気温及び地温を上昇させると、出芽、開花が早くなり、8月の切花本数が多くなる（図1、表1）。
- ② 定植前に球根を湿潤条件（吸水させて固くしぼったオガクズで木箱にパッキング）で35℃、30日間催芽処理し、処理後さらにBA液剤（6-ベンジルアミノプリン3.0%）の300倍水溶液に1時間浸漬して定植すると、定植後の出芽が早くなるともに出芽率が高くなり、切花本数が増加する（図2、表2）。

【成果の活用面・留意点】

- ① クルクマ切花生産地における促成栽培技術として活用する。
- ② 催芽処理中はパッキング材料が乾燥しないよう注意するとともに、処理中に球根が腐敗しやすいので健全な球根を選んで処理する。
- ③ 球根は低温に遭うと腐敗するので、8～10月出し栽培の切り下球根を翌年の切花栽培に使用する場合には、11月末までに掘り上げ、直ちに乾燥させ15℃以上の温度で乾式貯蔵（モミガラ等でパッキング）する。
- ④ BA液剤は未登録である。

[具体的データ]

表1 定植時期及びトンネル被覆と切花本数 (平成3年)

| 定植時期<br>方法 | 切花本数 |     |     | 合計<br>本 | 開花<br>茎率<br>% | 切花長<br>cm |
|------------|------|-----|-----|---------|---------------|-----------|
|            | 8月   | 9月  | 10月 |         |               |           |
|            | 本    | 本   | 本   |         |               |           |
| 3/15・トンネル無 | 0.1  | 0.5 | 0.5 | 1.1     | 31            | 52.7      |
| 〃・〃有       | 0.7  | 0.7 | 0.3 | 1.7     | 44            | 47.9      |
| 4/15・トンネル無 | 0    | 0.8 | 0.7 | 1.5     | 46            | 43.2      |
| 〃・〃有       | 0    | 0   | 0.5 | 0.5     | 18            | 39.6      |

注) 切花本数は出芽球根1球当たりの本数。

表2 催芽処理方法と切花本数 (平成4年)

| 区           | 切花本数 |     |     | 合計<br>本 | 開花<br>茎率<br>% | 切花長<br>cm |
|-------------|------|-----|-----|---------|---------------|-----------|
|             | 8月   | 9月  | 10月 |         |               |           |
|             | 本    | 本   | 本   |         |               |           |
| 無処理         | 0    | 0.2 | 0.3 | 0.5     | 25            | 43.0      |
| 催芽30日       | 0    | 0.3 | 0.6 | 0.9     | 40            | 46.5      |
| 〃+GA200ppm  | 0    | 0.3 | 0.5 | 0.8     | 37            | 44.7      |
| 〃+BA300倍    | 0.2  | 0.4 | 0.7 | 1.3     | 44            | 47.1      |
| 〃+Eth100ppm | 0.1  | 0.4 | 1.3 | 1.9     | 43            | 43.0      |

注) ①切花本数は出芽球根1球当たりの本数。

②GA:ジベレリン BA:ピ-E液剤 Eth:エセフォン

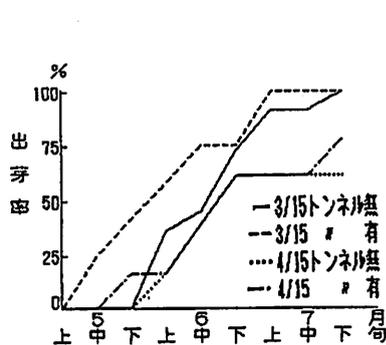


図1 定植時期及びトンネル被覆と出芽率 (平成3年)

注) トンネル被覆は定植から6月5日まで

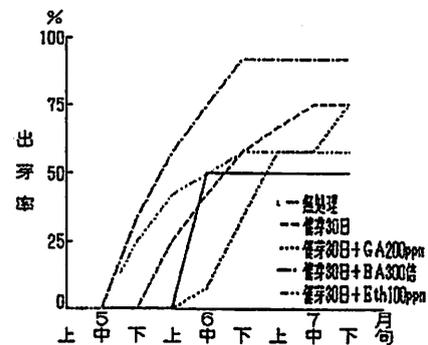


図2 催芽処理方法と出芽率 (平成4年)

注) ①4月5日定植。

②催芽処理: 3月6日~4月5日まで35℃で湿式処理。

③植調剤処理: 催芽処理後4月5日に1時間浸漬。

[その他]

研究課題名: クルクマの促成栽培

予算区分: 経常

研究期間: 平成4年度 (平成3~4年)

研究担当者: 坂井康弘、小林泰生、谷川孝弘

発表論文等: 平成3~4年度園芸研究所野菜花き部花き花木研究室試験成績書